



創刊
昭和42年10月10日
第150号
平成29年12月4日
能代市教育委員会
学校教育課
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

随想



現在、不登校児童ゼロです

第四小学校長

近藤 勤一

本校の児童数は10月1日現在で535名ですが、不登校児童は1人もいません。登校を渋る児童の声も、最近では聞かれなくなりました。10月10日は今年度初めて全員が出席し、職員室の黒板に大きな花丸がつかまりました。心も体も元気いっぱいのかかしやの子です。不登校児童ゼロが実現できている背景に、チームとしての対応があります。登校渋りの子どもが出るたびに、すぐにさわやか委員会（いじめ不登校対策委員会）を招集し、対応を協議します。年度当初の4月と5月には合計4回開き、心配な子どもたちと保護者への支援を行いました。

保護者対応は担任1人に任せるのではなく、養護教諭や通級指導教諭、生徒指導担当も入り電話連絡と面談、家庭訪問を繰り返しました。養護教諭が朝一で保護者へ電話をし対応する姿を何度も目にしました。子どものことを心底心配しているのが保護者に伝わり、信頼が増してきているのが電話口から感じられました。急学傾向の登校渋りに対しては男性職員が保護者の理解を得て対応しました。最初は強い抵抗を示す児童も数回繰り返すことで、何事もなかったように自ら登校するようになりました。チーム対応は効果抜群でした。しかしながら、課題がないわけではありません。ゲームにはまり、夜遅くまで起きている高学年児童が数名、見受けられることです。中学校との生徒指導協議会で、不

登校傾向生徒がゲームに夢中になって朝起きられず、その始まりは小学校の時からと言うことが話題に

随想



元気の源

崇徳小学校長

佐藤 勝明

なりました。今後、小・中が連携し取り組まなければならない課題です。

榎山地区敬老会は、6月第一日曜日に崇徳館で行われます。崇徳小学校は、当日に登校日にして地域の方々を前に、歌や踊り等を披露します。春のミニ学習発表会と表現すればイメージしやすいかと思えます。小学生の活躍する姿を見て、一緒に校歌を口ずさむ方々もいます。校長として、地域から応援される学校づくりの具体策を考える1日にもなります。

日々の学習活動の中に、地域に根ざした学習活動があっても、それだけで地域から応援される学校にはなれないと考えています。そこで、地域の方々に対するお礼に一工夫を加え、少しレベルアップを試みました。また、児童が感謝する姿を、自分の子どもや孫の姿と重ね合わせてもらうことができ

